

市長のまちづくりふれあいトークの主な内容について

(平成23年4月13日から平成23年7月8日まで 熊無、速川、久目、窪、宮田、朝日丘、上庄、東、稲積地区で実施)

項目	意見等 ()内は地区名	回 答
防災	<p>1 東日本大地震を教訓とした今後の地震災害の対策について、どの様に想定しているのか。市の考え方、将来のビジョンについて聞きたい。</p> <p>(熊無、宮田、窪)</p>	<p>氷見市に大規模な地震を引き起こす可能性がある断層帯は、^{おうちがた}邑知潟断層帯等5箇所があるとされており、市ではこの^{おうちがた}邑知潟断層帯による直下型地震でM7、震度6以上を想定している。その内容について「氷見市ゆれやすさマップ」を作成し、ホームページ等でも公表している。地震時の対策については、震度5弱以上で市長を本部長とする災害対策本部を設置し、マニュアルを基に被害に対応することとしている。</p> <p>津波については、糸魚川沖地震を想定し、氷見沖1.1m、遡上高4mを想定し、防災マップにも浸水エリアを明示している。しかし、今回の東日本大震災を受け、県では津波等について防災計画を見直すこととしており、市もその作業を見極めながら氷見市防災計画を点検することとしている。</p> <p>災害による人命にかかわる被害を未然に防ぐには市民に情報を迅速・的確に伝えることが有効であり、防災行政無線のデジタル化に今年度から着手する。</p>
	<p>2 福島県では、20km圏内は強制的に避難指示が出ているようである。我が家に帰るためにマスクや防護服を装着しなければならないというニュースも見た。</p> <p>志賀原発に事故が発生した場合、市としてどう対応するのか。北陸電力に対して、安全対策を申し入れているのか。</p> <p>(久目)</p>	<p>北陸電力からの志賀原発の情報については、安全協定を締結している石川県や志賀町と同様の詳しい説明を受けてきており、これまで北陸電力に対し、市民に不安を抱かせることのないよう、強く要望してきた。</p> <p>県においては、原子力災害の対応策の見直しを進めると聞いている。市としてもその推移を見極めながら、県やその他の防災機関と連携を深め、迅速で正確な情報の提供を北陸電力に求めている。</p>
	<p>3 地元の防災訓練を5年に1回やっているが、その度役員が変わっており、防災資機材がどこにあるのかわからなくなっている。心構えとして、もっと短い期間で実施すれば</p>	<p>今まで持ち回りでやってきたが、今回の震災でいろいろな意見がでており、画一的なものではなく地区に合ったものを考えていきたい。</p> <p>これまで自主防災会を校下単位でつくってきたが、本来なら集落単位で考えな</p>

	どうか。(速川)	いといけないものである。整理に時間はかかるがアイデアをいただきたい。
治山・治水	1 園川が決壊すれば、即座に床下・床上浸水する可能性が高い。4年ほど前にも泉川の堤防が決壊したときに、緊急に300個ほどの土嚢を積んで堪えきった。現在住んでいるところが非常に危ないので対策を講じていただきたい。また、地盤が沈下しているということも事実であり、地区の財力ではとても解決できないため、市のご協力をお願いしたい。(窪)	園川周辺や上流部の宅地化により貯留する水田が少なくなり、流出量や流出時間が早くなっている。根本的に浸水対策を行うためには十二町潟排水機場のポンプ能力を増すことだが、それには大変な事業費と莫大な労力が必要となるため現状では難しい。 現状の対応として、田んぼに一時的に水を溜め少しでも水量を下げる方法を検討しているほか、浚渫を計画的に行うことも考えていきたい。護岸の弱い部分については順次災害復旧等で対応していきたい。
	2 上庄川は、七分一から上庄大橋の間がジグザグで、川幅が狭くなっており少しの雨でも増水して洪水が起きやすくなっている。川の流れをよくするような河川改修をお願いしたい。(上庄)	上庄川の左岸の堆積物については、県土木事務所に連絡し対処してもらおう。 上庄川の改修計画については、今現在、整備の基本方針を作成中で、それを受けこれからの整備計画を作ることになるが、今年中に整備計画を国に申請し、平成24年度には国からの整備計画の決定を受けたい。それまで、本格的な事業はないが、暫定的に悪いところから少しずつ、協議しながら対策を講じたい。
消防	1 窪地区では窪9組と10組に防火水槽、消火栓が少ない。防火水槽と消火栓の設置基準はどのようになっているのか。(窪)	消火栓・防火水槽については国が定める消防水利の基準に従って設置しており、消火栓・防火水槽のほかに、池や川、学校のプールも消防水利である。 どの家からも一定の距離以内に水利があるよう設置することとなっており、その距離は家の密集度合いにより異なるが、窪9組、10組については一部工業地帯があるものの、家屋の密集がないため、1つの水利の有効距離範囲を120mと試算し、ほぼ住宅をカバーできている。 住宅が増加している一部地区において距離が伸びている場所もあるが、今後の住宅の増加状況を見ながら、計画的に水利の設置を行っていきたい。
	2 以前から加納町から新道にかけての5町内で防火水槽の設置を要望しているが、予定はどうなっているのか。(東)	北大町市有地周辺については、海岸埋め立てにより、消防車が水利部署不能となり、水利不足箇所として、整備計画に掲げている。 今回、北大町市有地の開発内容も決定し、大型施設が来年秋にオープン予定となったことから、当該施設及び住宅等を勘案した消火活動に最適な場所に、来年度、防火水槽を設置する予定であり、今後の開発に伴い、計画的に水利の設

		置に努めて参りたい。
	<p>3 南部分団車庫のシャッターが老朽化して錆びているので、新しく色を塗り直して、忍者ハットリくんを描きたい。今後さらに分団員は少なくなっていくことが予想されるが、市の職員に分団に入ってもらえないか。</p> <p>(朝日丘)</p>	<p>分団車庫のシャッターについては、消防のイメージにとらわれず、地元で自由に考案・作製しており、他分団車庫でも藤子先生のキャラクターを使用した例がある。ただ、使用する際には、事前に承諾を得る必要があり、希望があれば、商工観光戦略課で連絡調整するので、まず具体的な内容を決めていただきたい。現在職員で消防団に所属している職員は6名であり、そういう者がいれば、こちらからも願する。</p>
地域福祉	<p>1 地域内には、老人会、婦人会、子育てサークルなど多くの福祉団体があるが、団体間の横のつながりがなく不都合である。行政から依頼により立ち上げているが、区長として各団体長を決めるのが大変で、みんな嫌々1年間やるので、とても消極的な団体である。地域福祉のネットワークづくりをお願いしたい。</p> <p>(熊無)</p>	<p>各種活動を実践していく中で、住民や関係諸団体との間に、ネットワークが形成されていくと考える。市では社会福祉協議会の協力により「生活・介護支援サポート養成研修事業」を実施している。社会福祉協議会のエリア担当者が中心となって、組織のサポート体制も整備されてきている。今後も、社会福祉協議会と検討していただきたい。</p>
	<p>2 寿養荘は気軽に老人が利用できる施設なので大変ありがたく思っている。今後、このような老人のための施設やいろいろな世代の人が利用する福祉センター等の整備計画はあるのか。北大町市有地に温浴施設が整備されると聞いている。そこに整備すればどうか。</p> <p>(東)</p>	<p>寿養荘は、昭和48年に老人休養ホームとして開館して以来、高齢者を中心に、市民の皆さんの憩いの場として親しまれてきているが、余暇の過ごし方の多様化や、施設の老朽化等の理由から、利用者は年々減少している。</p> <p>こうした中で、氷見市行政改革推進市民懇話会からの提言を受け、市としては、「現在の設備等が故障し、修繕に多額の費用を要するような事態になれば、廃止を検討する必要がある。」と考えている。</p> <p>現在のところ、新施設は考えていないが、新施設が必要になったときや、今後の寿養荘のあり方については、広く意見を承ってまいりたい。</p>
医療	<p>1 速川地区は無医村になっている。高齢者が若者に気を使って生活しており、地域に診療所を設置してほしい。</p> <p>(速川)</p>	<p>市民病院で開業医がカバーできない無医地区を巡回し、診療を行っている。</p> <p>無医地区とは中心から半径4km以内に50人以上が住んでいる、路線バスが3往復以下である等いろいろな条件があるが、速川地区は加越能バスが4往復以上走っているため、市民病院の巡回診療の対象になるのは難しい。</p>

<p>道路</p>	<p>1 国道415号大野谷屋間のバイパス整備促進について、順調な滑り出しで工事が始まったが、予算の配分が少ないというか、なかなか仕事ははかどっていないように思う。1日も早い工事の完成を。</p> <p>また、415号とのアクセス道路も数カ所あるが、415号と並行して工事をしてもらえないか。 (上庄)</p>	<p>大野～谷屋間(4.9km)42億円の事業費である。</p> <p>国道415号大野谷屋バイパス整備事業は平成21年度に採択され、路線測量、詳細設計や上庄保育園の買収、谷屋地内の用地買収を行っている。高岡土木センターによると、今年度は、谷屋、大野、泉地内の用地補償や、谷屋地内での工事を行っていく予定であり、来年以降も大野地内と谷屋地内の両側より用地買収や物件移転補償を行っていき、用地補償が進んでくれば、買収区間を工事し、供用開始することで効果を出していきたいとのことである。</p> <p>氷見市としても、地元同盟会、事業促進協議会とともに予算獲得に向け今後も活動して参りたい。</p> <p>アクセス道路については、県の事業着工が見えたら、よりよい効果がでるよう併せて工事をしていきたい。</p>
	<p>2 上田地区への出入りは415号から1本しかない。十二町側から入ることもできるが、万尾側の橋梁が直角であることと、たびたび浸水に見舞われている。上田住民だけでなく、工場の営業体制にも影響が出ると思われる。415号の工事期間のアクセス道路の取り付けをスムーズにしてもらいたい。 (上庄)</p>	<p>交差点の計画そのものはしっかり決まっていない。住民の皆様と協議しながら決めていく。工事期間中の交通確保は、計画がはっきりした段階で協議したい。市もその区間の交通は非常に重要と考えている。</p>
	<p>3 鹿西氷見線は、中央に亀裂があり、マンホールのデコボコが目につくので、路面の点検調査をし、今後の交通事情の変化に対応できるようにしてほしい。交差点の接点(市道)を含めてお願いしたい。 (稲積)</p>	<p>先ほど案内していただいて、路面の状況を把握させてもらった。これから交差点が海まで突き抜けるとどのような交通の流れになるのか、注視する必要がある。路面の点検も県と一緒にやっていきたい。市道についても問題があれば遠慮なく聞かせてほしい。</p>
	<p>4 朝日丘小・南部中の改築に伴う地域の整備について、南部中1号線・2号線道路の整備はまだ検討中であるとはお聞きしているが、大型バスが乗り入れられるような整備計画があるのなら教えていただきたい。また、南部中2号線は非常に痛んでいる。どのように改良していただけるか。</p>	<p>市道村上1号線・2号線については、校舎改築とのスケジュール調整をしながら整備する。まずどういう整備をするか、測量試験から取り掛かる。</p> <p>浸水対策については、毎年皆さんから指摘を受けており、わずかだが対応している。順次、準備の整ったところから整備していく。なかなか一度に進まなくて申し訳ないが、決してやらないわけではない。</p>

	<p>また、排水路が不十分で、村上の辺りがたびたび浸水している。改良はどうなっているか。街路リフレッシュ事業は7割前後できていると思うが、残りの整備をしていただきたい。 (朝日丘)</p>	<p>街路リフレッシュ事業も、町内会長と相談しながら、少しずつ、投資効率の高いところを教えていただきながら行っていきたい。</p>
住宅	<p>1 隣の石川県の羽咋市神子原地区では、空き家の利活用による若者の定住が進んでおり、加えて、大学生などの若者が数多く地区に出入りしているようだ。 私は、農業体験をしたいという若者が結構いるのではないかと考えるが、その際活用できる空き家や学校の空き教室などもたくさんある。東日本大震災の被災者の避難希望もあるのではないかと。 若者の定住対策に被災者の避難対策を加えて、空き家対策を考えてほしい。 (久目)</p>	<p>今まで若者に来てもらうようなPRが下手だったように思う。 今後、氷見市の農業、漁業、畜産業などの職業体験の場を都会に向かって宣伝していきたい。 それも大事だが、まず働く場を確保し、氷見市の若者に地元にとどまってもらうことが重要である。この働く場づくりに加え、単に補助だけではない垢抜けた住宅施策を考える必要があるのではないかと考えている。 日本国全体が人口減の状況であり、いずれ東京の人口も減ってくる。氷見は条件不利地域であるが、負けないようにしていきたい。良いアイデアがあれば教えていただきたい。</p>
	<p>2 道路沿いの廃屋が気になる。環境美化に結びつけ、中・長期的に取り壊していくことができないか。 (速川)</p>	<p>個人財産なので、地域の人が出て行った人に話してもらうのが一番である。</p>
上水道	<p>1 災害時における融雪井を利用した飲料水の確保について。上田子地区では、100メートル近い井戸を3本掘っている。災害時に、飲料水として利用してはどうか。 (熊無)</p>	<p>市で管理している融雪井の中には、まれに飲用可能なものもあると聞いている。宮田にも井戸水をくみ上げる施設がある。今は利用していないが、災害時に利用できれば良い。震災時にライフラインが寸断された時、地盤の変化による地下水の変動・液化化現象も考えられるので、その時点で調査が必要になる。緊急時には飲料水として検討したい。</p>
公共交通	<p>1 高齢化が進み、交通手段の確保が難しくなってきたり、今後、買い物や通院などの支援が必要となってくる。地域住民の交通手段の確保については、どのような手法があるのか。 (速川、久目)</p>	<p>三尾線、坪池線の2路線があるが、乗車率の減少し、コミュニティバスのことも含めて、交通弱者への対応が今後の氷見市における重要な課題と考えている。平成6年に速川地区と久目地区で「氷見地区公共交通活性化モデル事業」を実施し、小久米を分岐点として1回百円乗合タクシーを運行させたが、ある程度の歯止めはみられるが、顕著な改善効果はみられないというものだった。平成21年度から乗降調査を行っており、維持方法の参考にしている。</p>

		<p>交通手段の確保には4つほど考えられる。</p> <p>①路線バスの積極的な維持に努める。</p> <p>②八代、碁石で行っているNPOのコミュニティバスを運行する。</p> <p>③スクールバスを活用する。</p> <p>④平成6年に行ったモデル事業を本格的な実施をする。</p> <p>どれも課題があり、地域の方々の協力と利用が絶対条件である。</p> <p>久目地区の安心生活創造事業の中で、久目の交流館で買い物の代行をしたり、地元の商店の協力で出張販売してもらったりというサービスメニューを試しに夏頃までやってみて、秋から本格実施したいという計画がある。皆さんにもお知らせしていきたい。</p>
	<p>2 新市民病院への公共交通（シャトルバス、市内循環バスなど）はどうなるのか。 (東)</p>	<p>加越能のバスは、ルート変更により、バスが新病院を通ることになる。NPOバスも通る予定である。</p> <p>氷見駅から市街地を通して、海鮮館、北大町、新病院へ行く循環バスを検討している。それに路線バスを結び付けたい。</p>
環境保全	<p>1 白砂青松の松林が、松くい虫にやられ、その後の植栽がされていない。何とかならないか。</p> <p>島尾から窪にかけての海岸線（砂浜）は、自然海岸であり今後残したい海岸だと自慢していたが、最近の寄り回り波で浸食された。特に海浜植物園の付近がひどい。 (宮田)</p>	<p>松くい虫にやられた松林の植栽については、県（高岡農林振興センター）へ伝える。震災でも、保安林が津波からの被害を弱めた実績も有り大事である。</p> <p>砂浜の減少については、時々議論になるが、50年前の画像と現在を見比べても、全体として減っていない。構造物をいれて守ると他の問題も出てくる。</p>
下水道	<p>1 中村地区総会を開くと、決まって、下水道工事について話が出る。中村地区では10年前から積み立てして準備して待っている。市の下水道工事についてお聞かせ願いたい。 (上庄)</p>	<p>下水道事業は、原則、使用料収入により施設の維持管理や借入金の償還を行うものとされているが、現在の経営状況では、新規地区の事業は当面着手できない状況にある。しかしながら、市民の生活環境保全を図ることも必要なため、下水道事業に比べて経済的（10分の1でできる合併浄化槽）、かつ効果的な汚水処理手法として、平成19年度に「氷見市浄化槽整備促進モデル地区」事業を創設し、平成22年度にはその補助制度の拡充を図り同事業による環境基盤</p>

		<p>整備を推進している。</p> <p>これまで、3地区が同事業を実施し下水道事業と同等の効果を短期間に得ている。中村地区においても「氷見市浄化槽整備促進モデル地区」事業による整備手法についてご検討いただきたい。</p>
公園	<p>1 朝日山の桜を楽しみにしている一人であるが、今年の桜の花には人もまばらで、閑散そのものであった。これは、樹木の高齢化によるものなのか、他の要因なのか。</p> <p>また、遊具広場についても、遊具が老朽化、減少しており、氷見市有数の観光名所としての魅力が乏しく、人を呼ぶインパクトに欠けている。園路、防護柵の設置などとともに、一体的に何とか賑わいを取り戻す方策を講じていただきたい。</p> <p>(朝日丘)</p>	<p>今年は確かに桜の花が少なかった。樹木も高齢化しており、またテングス病という病気にかかったもの、大雪で山に餌が無く、ウソがつぼみを食べに来たなどの要因が挙げられる。その中で、高齢化が最も大きな要因である。</p> <p>一般的に、桜は60年が寿命と言われている。朝日山公園の桜は、日露戦争の戦勝記念に植えられたもので、100年経っている。</p> <p>賑わいを取り戻すために、今年度から「桜の名所再生計画」を立て、一部植え替え等、数年をかけて事業を展開したい。</p> <p>遊具については、老朽化しており、(安全)基準の見直しにより撤去してきた。しかし、子供たちが公園に親しむために遊具の配置は必要であり、現在、複合遊具1基(高学年対象)、スプリング付きの動物の遊具1基(低学年用)があり、さらに今年度事業で幼児を対象とした遊具を設置して、賑わい作りに努めている。</p> <p>現在工事している新しい公園について、氷見高校テニス場跡は既に整備が完了している。市街地の展望など、旧公園とは違った趣になっている。現在整備中のものは、見晴台を設置するなど、自由に、多目的に遊べるゾーンとして、旧公園とリンクして散策できるよう整備して参りたい。</p>
子育て	<p>1 氷見市の子供の通院医療費助成だが、3人以上の世帯しか無料にならない。他の子供(世帯)と不公平ではないか。他市では中学3年まで無料な所もある。</p> <p>(上庄、稲積)</p>	<p>子どもの医療費助成には入院費と通院費に対する助成があり、今年の4月から、入院費については小学6年生から中学3年生まで、通院費については、未就学児に加え、18歳未満の子が3人以上の多子世帯の中学3年生まで対象を広げたところである。</p> <p>国からの子供手当の支給などもあり、今後は、氷見市全体の子育て支援の大きな課題の1つとして考えていきたい。</p>

	<p>2 私はベビーマッサージの教室を開いているが、県外、市外の受講者が、氷見の子育て施策が充実していると言ってくれる。氷見は子育てでこういうことをやっているということをもっと内外にPRすれば、若い人たちが氷見に来てくれると思う。</p> <p>その一方、氷見に住んでいる人しか、地域の子育てセンターを利用できないという課題もあり、もっと外部の人を受け入れ、市外の人サービスを利用できるようにしてほしい。そうすれば、転勤で氷見に来ている人も子育てサークルに参加できるようになる。個人的には、そんなサークルを久目地区で開催できればと考えている。 (久目)</p>	<p>市外の人の子育てセンターを利用できないということについては検討したい。子育て支援施策が充実していると褒めていただいていることは、正直嬉しい。今後とも更に充実させるよう頑張っていきたい。</p>
	<p>3 昨年7月に窪地区の学童に関するアンケートを行ったところ約80名が入れないでいるという結果だった。第8次総合計画の中に、待機児童の解消を図る方策(新たな施設整備など)を何らかの形で盛り込んでいただきたい。 (窪)</p>	<p>窪校区では、放課後児童クラブとして窪校区児童育成クラブ、園っ子児童育成クラブ、さんさん広場のビバふじみだいの3箇所が子育て支援の場となっているが、これまでも支援の場の拡大についての要望があり、市では本年4月に改めて窪小学校の1年生から3年生の児童の保護者を対象に再度アンケート調査を実施した。この結果については近々、地区の代表者の方に話したい。</p> <p>放課後児童クラブの開設・運営については施設の確保や運営体制づくり、指導員の確保が重要な問題であり、地区の皆さんのご協力が重要かつ不可欠であるので、アンケート結果を踏まえながら地区の皆様と協議したい。</p>
	<p>4 朝日丘小学校では、ボランティアに支えられて学童保育を実施しているおかげで、仕事を持つ保護者も安心して子供を預けられる。引き続き、同じ場所で学童保育を行わせてほしい。 (朝日丘)</p>	<p>朝日丘校区児童育成クラブの学童保育の平成22年度利用状況の実績から見ても、必要性については十分認識している。</p> <p>今後、国とのやりとりの推移を見ながらも、できれば校舎の一部を活用して継続を基本にして参りたい。</p>
<p>学校教育</p>	<p>1 氷見市の語学教育は立派だ。グローバル社会を迎え、AET (ALT) を他市に先駆けて導入し、効果が上がっていると思う。第8次総合計画においては、語学教育を強化</p>	<p>現在、教育の総合計画とも言える教育振興基本計画を策定中であり、第8次総合計画にも、語学教育の強化について盛り込むよう努力したい。</p>

	<p>するような施策を盛り込んでほしい。 (東)</p>	
	<p>2 西部中学校、灘浦中学校を北部中学校に統合する計画があるが、広範囲になりすぎる。西部地区と上庄地区を1つにして、1中学校、1小学校で良いのではないか。 (熊無)</p>	<p>平成21年4月に策定した「氷見小中学校将来計画」は、10年後の児童数を見据えながら計画している。その中で、中学校の統合を検討しているが、はっきりとは決まっていない。今後、各地区の皆様と協議していきながら検討していきたい。</p>
	<p>3 2年前に小学校体育館の耐震化工事が終了したが、社会体育推進の利用で賑わっており、人数が多く手狭になってきている。今度、学校関係で改修工事が計画される際には、宮田小学校の体育館を拡張してもらいたい。 (宮田)</p>	<p>宮田小学校の体育館は、児童数の割りには狭いが、子どもの数は今がピークである。皆さんに不便な面もあると思っている。教育委員会では耐震化工事を第一として改修してきており、厳しい財政の中、体育館拡張までは手が回らないのが現状である。</p>
	<p>4 仏生寺小の校舎を富山大に貸したというニュースを見て感心した。氷見に大学をという構想をもっていただくとよい。 (速川)</p>	<p>一般の大学は少子化で大変な状態である。夏季講座、スポーツ部のキャンプをしてもらえないかは進めていく必要はあるが、一般の大学の誘致は難しい。</p>
	<p>5 新聞で2分の1成人式の記事を見たが、これはどういう事業か。 (窪)</p>	<p>2分の1成人式というのは20歳の半分である10歳、市内の小学4年生全員を対象として、高学年に向かっていく自覚や郷土を愛する心を持ってもらうため、博物館で学芸員に質問等をしながら、自分たちの郷土を知る、いわゆるふるさと教育を行うというのが1つの主旨である。また、子どもの感性を養う原点は読書にあると考えるため、図書館でいろいろな本を読むことや公共の施設を利用するマナーを学びながら大人になる自覚を高めてもらうこと、図書カードの申請をしてもらい、子どもたちがそれを家庭で話すことにより、家族ぐるみで読書する契機としてもらうこともねらいとしている。</p>
定住	<p>1 これ以上過疎化を進行させないためには、若者の定住できる方策を練ることが必要であるが、どのような若者定住の方策を考えているのか聞きたい。 (久目)</p>	<p>若者の定住対策は本市にとって重要な課題と認識しており、平成14年に定住交流推進班（現在：定住交流・少子化対策班）を設置し、空き家情報バンク事業などの定住施策に取り組んできた。</p> <p>若者の定住には、企業を誘致し働く場を確保し、そのあとの結婚、子育てのための医療や教育の充実が望まれている。現在策定中の第8次総合計画には、雇用環境や生活環境などを含めた総合的な定住施策を盛り込んでいきたいと考え</p>

		ている。
農業	<p>1 農業について後継者が育っていない。氷見で農業を始めるときにどのような就農支援をしていただけるのか。</p> <p>他市では農地や農業機械の無償貸与や、農作物が収穫できるまでの生活資金を無利子で貸し出す制度があると聞く。若い人が就農しやすい支援制度をお願いしたい。</p> <p>(窪)</p>	<p>後継者問題は全国的にも厳しい状況である。そのような中での市の取り組みとして、集落営農の組織化・法人化の推進、営農組織への農業機械・施設整備に対する助成、新規担い手育成のための農業体験研修や就農支援資金等の助成を行っている。</p> <p>今後は誇りを持って農業をやってもらうことが大変重要だが、その対策として6次産業化も一つの方法と考えており、そのような動きがあれば一緒になって考えていただきたい。農地を耕作できなくなった人の依頼を受けて、認定農業者等へ農地を集積する農地円滑化事業も行っており、経営規模の拡大と耕作放棄地の解消にも努めて参りたい。</p>
土地利用	<p>1 能越自動車道について、氷見北ICの開通など、北に整備が進むにつれて、氷見ICを利用する人が少なくなっているのではないかと。IC周辺に、公共施設や民間企業を誘致し活性化できないか。企業が進出しないのは、農振除外(用途転用の網がきびしい)が問題なのではないか。企業が進出するとなれば、市がバックアップして早く用地買収ができるようにしてあげてほしい。</p> <p>(上庄)</p>	<p>氷見商工会議所をはじめ市内の各種団体の代表者や市民74人で構成する氷見まちづくり戦略会議で1年間にわたり氷見市の将来展望や夢などを議論され、平成17年12月に「戦略的なまちづくりビジョン」が提言されました。</p> <p>その中で、「まずは、そこで来訪者の目的が達成されてしまう大掛かりな施設整備を避けて、来訪者をまちなかの施設へ誘導するためのエントランス機能に徹することが無難である」との結論に至り、市では、誘導看板などの設置をおこないました。ただ、IC周辺の開発については、昨今の経済状況や市の財政を勘案すると、見通しは大変厳しいと認識している。現在、北大町市有地において、食文化発信施設等の建設計画がすすめられおり、その中で、北大町の集客施設と田園漁村空間博物館構想で整備した施設の連携を図り、観光客の流れを市内全域に誘導することが重要であると考えている。</p> <p>上庄地区においても、今後、獅子舞ミュージアムの機能を強化し、地域の賑わいづくりを図って参りたい。企業誘致等の話があれば、企業立地助成していく。</p>

<p>中心市街地</p>	<p>1 藤子先生のまんがキャラクターがまちのあちこちにあるが、海鮮館からカラクリ時計までの間のキャラクターの点を結んで線にし、藤子ワールドを構築できればと考えている。</p> <p>① 北大町の新しい施設から北大町商店街、海鮮館までの歩いて楽しむ道の整備</p> <p>② ハットリくんロードの北の橋まで延長</p> <p>③ 中の橋の欄干を藤子キャラクターに変更</p> <p>④ 湊川の噴水に、人気キャラクターを集めた藤子ワールドのオブジェを設置</p> <p>等の取り組みを行い、中心商店街の魅力を高め、氷見を「藤子先生のまち」にしたい。</p> <p>北大町の新施設について、市の情報を発信する施設や氷見市と縁の深い人々を紹介するふるさと歴史館も整備してはどうか。また、商店街にも相乗効果をもたらすための方策を市では考えているのか。 (東)</p>	<p>市では、海鮮館や北大町市有地を含む一帯の地域を、200万人交流、さらには300万人交流を目指したにぎわいの中核としたいと考えている。</p> <p>北大町市有地に建設する施設では、氷見の海、里山、温泉といったポテンシャルを最大限に引き出して農林水産業や観光産業の振興を図ることとしており、加えて、中心市街地や各地域におけるまちづくり活動と連携し、「氷見市の心臓」としての役割を持たせ、市内各地への回遊性の確保にも努め、氷見の魅力を一層高めていきたい。</p> <p>これまでは、中心市街地への誘導策として、湊川のカラクリ時計「虹の橋」、潮風通りのサカナ紳士録、忍者ハットリくん等のモニュメントを含むまんがロード、潮風ギャラリーなどを整備し、観光客の誘導に一定の効果を上げてきたと思っている。</p> <p>今後、海鮮館の活用策について検討していくこととなるが、これまでの中心市街地への誘導策の成果を踏まえつつ、氷見まちづくり株式会社や商店街の皆様との協力を得て、中心市街地への人の流れを生み出すソフト事業などにも力を入れたいと考えている。</p> <p>先ほどからいろいろなアイディアをいただきありがたく思っている。これからも一緒に考えていきたい。</p>
<p>地域振興</p>	<p>1 論田では、藤箕・わらじ・草餅などの名産がある。ただ、作っている方はほとんどが高齢者である。高齢者の生きがいづくりで行ってはいるが、今後も継続していけるように、氷見市内の特産品を伝承する仕組みを作ってはどうか。付加価値をつける、販路拡大なども。 (熊無)</p>	<p>市では平成14年度に「田園漁村空間博物館基本構想」を策定し、本市にある歴史、伝統文化、自然景観、住民生活そのものも含めた地域資源を「ひみの宝」と位置づけ、活力ある地域づくりを行ってきた。江戸時代、氷見には100余りの村々があり、その地域が「一村一品運動」を行えば、本市に100の名産が誕生し、本市の活性化が図られると考えられるが、今後、あり方、支援の仕方について検討していきたい。</p> <p>教育委員会では、これまでも様々な調査研究を行い、結果をとりまとめ冊子として発刊している。また、博物館でも特別展を開催して、その記録保持・紹介に努めている。行政では、周知・調査研究・情報発信などの間接的な推進力で</p>

		の支援が適当と考えている。ホームページ、パンフレット、市広報紙により情報発信等に努めていく。
	2 窪では白ネギを100反ほど作っている。中京圏では非常に人気があると聞いたが、氷見版一村一品運動の中で白ネギはどのような位置づけにあるのか。(窪)	窪ネギは生産量も多く品質も高いので、氷見の代表選手だと考えている。来年の秋以降に北大町の埋立地に食の拠点を作るのだが、各地区にお願いしているのは、各地区、工夫を凝らしたものを提供いただきたいということである。そのままでもいいが、窪ネギをおいしく食べていただくため、もうひと工夫していただきたい。窪ネギ自身でも大変なブランドだとは思いますが、1年半くらい時間があるので、全国に窪ネギをPRする知恵と思いを集めてもらいたい。
	3 早借船山を見ていただいた。後片付けの終わったところから何か植えていきたいと思っている。西部地区の玄関口にしたいと思っている。(速川)	田園漁村空間博物館事業は国の補助事業を取り入れた。乗り遅れた地域もあるので、市としてはこれからも表紙を掲げてやっていきたい。総合計画では田園漁村空間博物館事業を掘り起こして少ない予算でもやっていきたい。
出会い	1 昔なら仲人がいたが、現在では結婚は恋愛でという若者の志向もあり、それに漏れた人はなかなか結婚できない状況にあるが、住みよい地域社会づくりをして、出会いの機会を多くするような地道な地域活動が必要ではないか。 市が主体となり、市民、企業、行政が共同できるような婚活制度を作って出会いの場を設けてみればどうか。(久目、窪)	人口統計資料によれば富山県の50歳以上の男性8人に1人は結婚経験が無いという現状。氷見市でも10年前から危機感を持っており、平成9年度から「愛・あいネットひみ」事業等、いろいろ方法を変えて出会いの場の創出に取り組んでみているがなかなかうまくいかない。現在は高岡地区広域圏事務組合が「であい・ふれ愛事業」を平成13年度から実施している。例年多くの参加があり、平成17年度から5組が結婚されている。 現在、女性保護富山県民協議会が、県から委託を受けて、出会いイベントの情報提供と結婚相談を行う「とやまで愛（出会い）サポート事業」や、男女の出会いイベント等に助成する「出会いイベント活性化支援事業」を行っている。 また、氷見市では、クリエイト・マイ・タウン事業の中で「夢・キトキトまちづくり事業」を設けて、若者が自ら計画する地域活動に助成している。 今後もこのような助成制度の周知に努めるなど、民間の方々が主催する「男女の出会いイベント」に対して支援、協力してまいりたい。

<p>既存施設の 有効活用</p>	<p>1 速川公民館で、各種証明書の取次ぎコーナーを設置してほしい。オンラインか何かで、全部とは言わない、時間を区切ったり、事前の申し出に限定したりでもよいので実施できないか。 (速川)</p>	<p>証明書の請求受付や発行をする場合には、請求者や本人の確認を行うための職員を配置するなどの仕組みづくりが必要であり、ご要望のような取次窓口の設置は難しいものとする。守秘義務の問題もある。 ただ、安心生活創造事業の中で、公民館で委任状を書いてもらい、代理人となって申請、交付という方法も考えられる。久目、朝日丘でやったことを検証したい。 本人確認は、市職員による確認も可能であるが、健康保険証など写真付でないものは2種類のものが必要になってくる。</p>
	<p>2 朝日丘小学校と南部中学校が併設になるが、グラウンド、体育館、特別教室棟、プールについては、ぜひとも残してほしい。 (朝日丘)</p>	<p>小中併設校として整備しているが、施設整備に当たって、建設されてから50年近く経っているため、施設の耐震調査を行い、危険度を判定した上で、国の補助を受けて整備している。 改築理由が施設の老朽化であり、国の補助対象事業になったが、国の基本的スタンスは、補助対象となるための要件として原則解体することとなっている。解体経費も補助対象となる。解体に対する補助は、平成21年度に制度化された。体育館、特別教室棟などの施設の一部を残して利活用する場合でも、残った部分の解体が補助対象になるか、現在県を通じて照会中である。残しても補助が出るかははっきり申し上げられない段階である。 教育委員会としては、これまで学童保育を実施していただいたことを勘案しても、世代間交流の場として残すことも一つの案として考えていけないかと。国の整備の状況を勘案しながら進めていきたい。</p>
	<p>3 9月1日に鞍川地内に移転する市民病院には、地域の中核病院としての役割を期待している。 移転後の跡地については、良い場所なので、市民みんなで活用策を考えるべきだと思う。市では、跡地利用の案を持っているのか。 (東)</p>	<p>現病院の敷地は、国道415号、160号に面しているとともに、氷見ICにも近く利便性が高い。面積は市有地部分で約2万1千㎡ある。 約13.5億円の耐震化交付金の交付要件である既存施設解体の費用(概算2.5億円程度)の他に、現病院の増改築工事のため発行した企業債の繰上償還(約1億円、財政融資資金分)などの財源問題も残っている。 現段階では、取り壊す年次、解体後の利用目的などについて、具体案は決まっ</p>

	<p>4 北大町市有地の開発に関連して、海鮮館が無くなると聞いている。その跡地利用をどのように考えているのか。個人的には、各町内の太鼓台や漁業に関する資料の展示、定置網のビデオ上映、子どもたちに対する魚の捌き方教室などを実施する施設にすれば良いと思う。観光施設であるとともに、子どもたちへの漁業の教育施設であることが望ましいと考えている。 (東)</p>	<p>ていないが、今後、議会、各界の皆様のご意見を踏まえ、慎重に方向性が定められるものと考えている。</p> <p>海鮮館では、テナントの皆さんが新たに建設される施設に移る方向で検討されていると聞いており、今後は、その利活用が課題であると思っている。</p> <p>今のところ、具体的な活用策は決まっていないが、水産庁の許可を得て、漁業を中心とした氷見市の伝統文化を体感できる施設、さらには、新たな魅力を付加した施設を検討して参りたい。</p>
--	---	--